

都道府県別賞一等

私の将来と家族の願い

奈良県 田原本町立田原本中学校 一学年

山川 翔

私の家族は、空手の先生をしている。私の将来の夢も空手の先生になることだ。空手を教えるのが好きだし、何より困っている子がいたら助きたい気持ち強い。空手の先生になるためには、大学に行かなくてはいけない。私には姉と弟とあわせて兄弟が三人いるので、たくさん学費がかかることは想像できる。今回、学費のことがとても気になったので、思い切って家族に聞いてみることにした。父は保険の種類について話をしてくれた。お父さんの命に関わることがあった時に家族を守るためにお金を受け取れる生命保険や、入院やケガをした時にお金を受け取れる医療保険、老後のことを考えて積みたてる年金保険などがあるということだ。その中で、子どもたち三人のためにかけていることも保険というものがあることを教えてくれた。私は普段当たり前前に学校に通い、塾に通い部活に汗を流しているが、学費という観点で考えてみると、とても高い費用がかかっている。父はネットを見ながら説明してくれたのだが、幼稚園から大学まですべて国公立に通った場合、約八百万円。すべて私立に通った場合、二千二百万円の費用がかかるそう。他にも英語や塾の費用も入れると子ども一人分の家を建てられるほどの費用がかかっていることが分かった。

「そんなお金、我が家にあるの？」

不安と素ぼくな疑問から聞いてみた。

「お父さんも大人になって、学費がこんなにかかっていることを知ったんや。お父さんは翔のおじいちゃんから『我が家は国公立しか行かせられないよ。』ということをよく言われたから、奨学金という制度も利用したし、アルバイトもした。将来希望する職業に就くために、死に物狂いで勉強したよ。でも、お母さんと話し合って、子どもたちがいききたい学校やなりたい職業ができた時に、学費がなくてあきらめなくてはならないことがないように、こども保険に入ることにしたんや。」

こども保険とは、将来進学する時に、一時金として、または全額まとまったお金を受け取れる保険らしい。私は、大人は働くもの、子どもは勉強が仕事と思っていたが、将来を見据えていないと進学すらできないのだと知った。もし、父に何かあったら、我が家の生活はいつきに様変わりする。当たり前が当たり前でなくなる。そんな不安を安心にかえてくれるのが保険だ。

私は今回、保険について考える中で、家族がどんなに子どもの将来のことを

第61回中学生作文コンクール

考えてくれているのかあらためて知り、『ありがとう。』という感謝の気持ちでいっぱいになった。そんな父母の気持ちを支えているのは、保険であることも知った。世の中のしくみについて、一つまた新しい知識をえることで見方や考え方も広がった。人の思いや願いに寄り添って、人生を支えてくれるもの、それが保険であるのかな。家族の思いや願いをいつも心に置きながら、将来の夢に向かって、一歩一歩進んでいきたい。